



日本の進路

Office
of

令和5年11月22日

Kuroda

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

既存インフラと産業基盤は、政治の指導とともに、現実になりつつある次世代の自己基準への転換を選択として与えられる。既存環境は先人の遺産であり、これが未来を求めることはできるのである。

政府の借金は、計画的な財政の再建を早急に要求される。10年スパンにおいて国家の支出と収入を計算するとき、これはもはや選択はないのである。

これらは絶望的な現実のみではないのである。既存の産業や社会基盤が、同時に未来を求めることはできるのである。

世界の趨勢が、競争と富という現実を有することに対して、日本の共生という歴史的な遺産は決して誤りでないはずであり、これら、世界の現実に対して日本が未来を提案することは可能なのである。

世界の趨勢は富と力において現実を有する。これらは絶対的な現実として、今日世界を与えるものである。これらに対して、競争と格差という現実への疑問は世界において必ず存在するのである。

これら現実の閉塞は、富と地位という渴望へ転換しているのである。これが競争原理における新しい世界の現実なのである。

これらはパワーポリティックスの原則において、西洋陣営がこれをリードするものである。

新しい価値観と世界が、アジアの極東の日本から提案することは真実においてできるものとする。これら独自価値観が世界へ未来を提案することは可能と考えるからである。

国家運営は、それにおいても現実を否定することはできない。国家の健全性の回復は、現実の趨勢である次世代基準における全ての現実の整備、国家財政の健全性など、政治がリーダーシップを求め、これら現実を行う必要性は存在するのである。